

## 第19回区民車座集会意見交換内容

※読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成27年12月9日(水) 午後2時から午後3時20分
- 2 場所 高津区役所5階 第1、第2会議室
- 3 参加者等 「高津地区一日一万歩歩こう会」「ヘルスパートナー高津」「元気な高津をつくる会」「NPO法人コスモス」の皆様、傍聴者 合計45名

### (1) 市長挨拶

こんにちは。お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この車座集会も毎月各区を回らせていただいて3巡目を迎えています。1巡目2巡目は全くテーマを決めずに、『定員30名ですからどなたでも来てください』という形でやらせていただきました。

今回3巡目は、それぞれ各区の企画で、どういった形にするのか考えていただいています。先月は川崎区でやったんですが、非常に興味深い内容でした。川崎区内には企業が多いので、企業で働く大人たちが仕事とは何か、働くとはどういう事かということをも中学生に教えていただく、そういうプログラムですが、それに併せて、企業市民として川崎区の街づくりについてどう考えているかという意見交換をさせていただき、そういう車座集会でした。

今日は、高齢者の健康づくりをテーマに活動している団体の皆様といろいろな意見交換をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。少し話が長くなりますが、ご案内のとおり日本の平均寿命はものすごく伸びていますが、川崎市で、例えば宮前区の男性の平均寿命は全国で2番目に高いです。一方で健康寿命では川崎市は全国平均を下回っています。平均寿命と健康寿命の差が、今男性が10歳、女性が13歳くらいでしょうか、それくらい差があるというのは非常に深刻だと思っております。是非皆様の活動を今日は私も学ばせていただいて、いいところはどんどん横に展開していくということが大事だと思っておりますので、いろいろ教えていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### (2) 意見交換

**高津地区一日一万歩歩こう会(石塚さん)** : 「歩こう会」は今年51周年をやりました。東京オリンピックの次の年からです。当時は宮前地区、橘地区、向ヶ丘地区、高津地区が入っている高津支所で、その支所長さんと警察署長さん、交通安全協会会長さんで作ったのが「歩こう会」です。私はその当時、体育指導員とか子供会の役員をやっていたので体操の指導などのお手伝いをしていました。何かのあいさつの中で聞いたのですが、東京オリンピックで日本の選手の成績があまり良くなかったのは体力が違うからだと言っていて、それで子供たちを歩かせて体力をつけさせようということのようでした。また、国道246号線など、第一次交通戦争と呼ばれるように、交通事故が頻繁にあった事で、歩きながら交通道徳を学ば

うということで始めたのが「歩こう会」の第一歩です。当時、夏休みの第3日曜日に「今日は歩こう会がありますよ」という合図で、朝6時半に今の高津小学校で花火が上がって大変な騒ぎになりました。また、その当時は一万歩がどのくらいの距離なのかもわからなくて、機械もなかったですから実際に歩いて、安全なところで多摩川を宇奈根の河原まで往復すると約6.5キロメートルから7キロメートルで約一万歩だということになりました。当時は珍しいので、本当に歩いて元気になるのかなというのもありましたが、400人ぐらい集まりました。警察も関わってくれましたから安心でした。

それが第1回で、その時はお祭りのなもので終わってしまったのですが、回を重ねるごとに「歩こう会」で近所同士顔を合わせるんですね。お母さんたちは割烹着に下駄で参加していました。50年前の高津はそんなだったです。近所の人みんな顔なじみになりました。大勢の人が参加するのでだんだん欲が出てきたところで、当時の支所の課長さんが熱心な方で、1年ごとに何か賞をあげようと言って作ってくれたのが、胸につける小さな「完歩賞」というバッジでした。子供たちはこんなものももらったってというのもありまして、そのうちに自分たちも考えて、お母さんたちにはお皿やどんぶり、子供たちにはキャラメルをあげるようになりました。それでも予算が大変でしたから、賞はなくなって。それと同じところばかり歩くので飽きるということもあって参加人数が少し減りました。そこでコースを変えてやってみようかということになりました。高津にはいくらでもコースがあって、津田山でも歩きました。あるとき読売新聞が雨の日に取材に来て「雨の中、熱心に70人が歩いていました」と書いていました。

そんなふうに現在まで50年歩いてきました。そこでわかったことは、人間というのは仲間がいないとだめということです。友達がいないと、話ができないとだめです。体も大事だけれど、やはり仲間というのは非常に大事です。あいさつも、参加するときには「おはよう」「元気だった?」、解散するときは「さようなら」だけではなく「またね」が大事なんです。次の約束をする。それが今の世の中には一番必要な事ではないかと思っています。

**市長:** 石塚会長は今92歳ですか? 『一日一万歩』歩いていると、これだけ健康でいられるという生き証人のようですね。たぶん50年前には、歩くことが健康づくりだと思っている人はほとんどいなかったと思いますが、今やこの考え方が、一番普及させなくてはいけない考え方ですよ。『一日一万歩』歩くってわかりやすいですよ。是非、会長をはじめ、メンバーの方がいろいろなところで講演していただいて、会長は92歳で「私、こんなに元気にやっています」と言っていて、事が何よりも説得力があると思います。是非、他の区にも展開していただいて「幸区一日一万歩歩こう会」とかそういうのができてくると健康寿命が上がっていくのではないかと思います。僕は、何度か溝口の駅前でこれから出発するところに御挨拶に行ったことがあります、すごい人数ですよ。2~300人いらっしゃるんじゃないですか。どんなところに行くのですか。

**石塚さん:** 高津区は近場にいろいろな所があるんですよ。ただ交通安全上、問題があるので裏道を使っています。

市長：川崎市は魅力的なスポットがたくさんあるので、モデルコースをいくつも作っていただくと自分の地域ではこんなコースだというのができると思います。区と一緒にコースの地図なんかを作っていただくといいと思います。月に1日は会で歩くけれどあとの29日は自分で歩くという習慣ができればもっといいと思いますので、是非、これからも力を貸していただきたいと思います。

ヘルスパートナー高津（米山さん）：テーマですが、「～いつまでも健康で暮らすために～みんなで行く健康体操・公園体操」です。キーワードは「健康」です。会の設立の経緯から今日までですが、スタートは平成元年4月です。それ以前は保健所の健康増進教室に参加された人たちが、地域に戻り、友人・知人、仲間を募って教室を開始したのがルーツです。当時は自治会・町会とか集会所とか会館から始めまして、現在は、いこいの家、高津スポーツセンター、交流センターなどたくさんの施設を使わせていただいています。今、川崎市が推進しています地域包括ケアシステムの精神、自助・互助・共助の精神は、すでに27年以前からずっと持ちながら活動を実践してきました。自分の健康、家族の健康、そして友人・知人、近隣の皆さん、という形でずっと活動を続けてきています。市の方針であります『健康長寿』これは誰もが望んでいることですね。自立して日々、いきいきと暮らすために、運動は欠かせません。だからといって別に体操ばかりじゃなくても、ウォーキング、水泳、ダンス、なんでも取り組んでいただいて生活の習慣の中に体を動かすことを取り入れていただく事が、健康寿命の延伸に繋がっていくと思っています。

超高齢化社会ですので、健康づくりと仲間づくりは最も重要なことだと思います。私たちは約60か所の教室を開催していますが、その中でコミュニケーションをとったり休憩時間を有意義に過ごしたり、あるいは教室に通う道すがら、それが健康仲間だと思っています。私たちは高齢者の皆さんが教室にたくさん通っていただいて、健康仲間が増えていく事を願っています。高津区は、人口が224,000人、65歳以上が38,500人で17.2パーセントです。川崎市の65歳以上が278,000人で19パーセントですから、ちょっと高津が若いという感じです。一番若いのは中原です。

是非教室に参加いただきたいのですが、この教室制度というのが高齢者にとって、とても取り組みやすいです。みんなで集まって会話をしたり体を動かして心地よい汗をかいたり、そして先程の石塚会長ではないですが、「またね」という、この教室制度というものが大切だと思っています。教室の内容ですが、地域性があります。また、ヘルスパートナーは80人おりますがそれぞれ得意な分野があります。ストレッチ系、リズム体操、両方とかいろいろ特色があります。野川の市営住宅で介護予防体操をしています全員が80歳代と90歳代です。だからほとんど椅子バージョンです。上半身と足を鍛える、というところまではいきませんので、体力を維持していく。それは年齢的なものです。敬老会に出向いていくこともありますが、ほとんど90歳以上で、元気な方がいっぱいいます。60歳代は珍しいです。健康体操というのは総称です。その中に介護予防体操、転倒予防体操、リズム体操、ストレッチ体操が入っています。最近では、認知症予防体操も入っています。私たちは資格を持つ

ているわけではありませんから、軽度の認知症の方と一緒に体を動かして、楽しみながら体操してもらっています。その他に公園体操があります。これは区内34か所で開催しています、ここも70歳代80歳代が中心だと思います。この公園体操は、筋力トレーニングもそうですが心肺機能も体の柔軟性も筋力も付く、15分間の高津オリジナルの公園体操です。これは是非一度体験していただきたいと思います。公園体操は、私たちが地域の立ち上げに行き、地区のリーダーを決めてお任せをするというやり方をとっています。これが『共助』に当たると思います。それで年に2回くらいリーダー研修をやっています。高津区の隅々まで公園体操を広めたいと持っています。

今後の活動と行政に感じていることですが、私たちの教室制というのは気軽に参加できる、とても取り組みやすい活動ですので、今後とも参加者を増やしてこの活動を続けていきたいと思っています。高齢化社会ですので自然に教室が活発に展開されていくと思います。もう一つ、リーダーとなる人と場所が必要です。人と場所の支援を今まで保健福祉センターにお願いしてきましたので、今後も保健福祉センターの協力をいただいて活動を展開していきたいと思っています。

**市長:**本当に素晴らしい活動をしていただいています。ありがとうございます。今、公園体操を34か所でやっていただいています、その他に60教室やっておられるんですね。今38,500人の65歳以上の方がいて、もっともっと増えていくわけですので、日々の体を動かすという事ですね。健康仲間ってものすごくいい言葉ですね。僕の両親も70歳代後半に入ってきているんですが、仲間が集まると健康仲間ではなくて、お墓の話とか病気の話なんですね。それじゃ駄目ですね。どうやって健康になるかという前向きな話をして行動に移すという、そういう仲間を広げていかないといけないとつくづく思いました。場所の確保の話は大事だし大変ですが健康づくりが一番大切なテーマですから、引き続き区も一緒に確保の努力をさせていただきたいと思います。

**米山さん:**26年度、教室に通っていただいた参加者の総数が23,000人です。ダブっている人もいますが、65歳以上の方の約6割の方が参加していただいています。

**市長:**よほど健康上の理由で運動ができないという人以外は、是非参加していただくという取組を全市的にもやっていかななくてはいけないですね。参加の割合を高めていくという目標数値を設定するというのは大事だと思います。

**米山さん:**自力で教室に通えるならば是非皆さん来ていただきたいと思います。

**市長:**非常に興味深かったのは、ヘルスパートナーさんのそれぞれ特色があって、ストレッチが得意な方、リズム体操が得意な方とか、そういうのもいいですね。ヘルスパートナーというのは年々増えているんですか？

米山さん：保健福祉センターで、4日間の養成教室がありますので修了して活動に入っていくというふうになっています。

市長：そうやってヘルスパートナーさんも増えていく、活動の場所も、それこそ高津区内に公園は何か所ありますか・・・相当あると思いますので、そういったところで、とにかくきめ細かくやることが大事ですよ。教室にしても公園体操にしても、ちょっと歩いたところですぐできるという。指導者の養成と、場の確保という面的に広げていくことが大事だということを勉強させてもらいました。ありがとうございました。

元気な高津をつくる会（田辺さん）：今日は設立の経緯、活動内容の報告、今後の活動に向けての課題について御報告させていただきます。まず設立の経緯ですが、私は栄養士として地域で、それからクリニックに勤務して活動していました。栄養士会では外食アドバイザーとして活動もしていましたが、栄養というと「そんなつまらない食事したくないよ」と言われてしまって、うまくいかないと思っていました。そんな中、十数年前に当時保健所で、学校、企業、行政などいろいろなところで活動している栄養士が集まって、一つのテーマで話し合う研修会がありました。そこで、いろいろな職域の方たちが集まると同じものを持っていても見方、考え方が異なるため、視野が広がっていくのを感じました。その中で、食と健康という話題になったときに地域の栄養士だけではなく、食生活改善推進員さんをはじめ一般の方を招いて、開かれた形で研修会を開催しました。

こういったことが土台になって、いろいろな方と垣根を越えて話し合いができたらいいいねということで平成15年に「食の安心推進協議委員会」というのが行政サイドで出来上がりました。代表が集まって意見を出し合って、例えば食の健康づくりだとか、「たかつ健康づくり協力店」制度だとか食の面から見た活動を広めてきました。話し合っていくと、健康というのは食だけではなく、運動とかいろいろな面が関わってきます。そこで保健福祉センターが主となっている高津区健康づくり実施会議もあったのですが、メンバーが重なっているということもあり、この二つが合体して平成17年2月に「元気な高津をつくる会」として誕生しました。ここからは保健福祉センターの支援を受けて、みんなで活動していくということで、これまで行政サイドで動いていた状況とは違って、みんなの力を集めるのはなかなか難しいこともありました。それでも話し合いを進める中で、地域で活動しているという仲間意識が広がり、当初15団体だったのですが現在では25団体、今日発表いただいている3団体のみなさまにもいろいろな形で力をいただきながら、また関わりを持っていただきながら今日に至っています。この会で私たちと一緒に企画とか運営とかで活動いただける団体と、私たちの活動を広く知っていただくために周知の方で活動いただける団体、いろいろな形で参加をしていただいています。

次に活動そのものについて4つに分けて報告したいと思います。まず本事業として「食の安心推進事業」「健康づくりのつどい開催」、収益事業として「委託事業」、会員向け事業として「スキルアップ事業」、連携活動として「他団体交流及び連携事業」となります。まず本事業ですが、スタートが食という事ですので「たかつ健康づくり協力店」の推進をしてい

ます。登録いただいたお店にはこのプレートの掲出をお願いしています。このプレートには協力店としての取組として、栄養バランスが取れているとか、野菜が多いとか、健康情報を提供します、といったことが書かれています。本音の気持ちではたくさんのお店を取組をしているお店を登録したかったのですが、初めでしたので一つでも取組んでいただけるお店を中心に登録しました。もう一つは食の環境です。当時はまだ煙草の分煙というのがなかったので、禁煙、分煙というのを入れていただけるとか、あるいはバリアフリーであるとか、あるいは情報発信を文書、掲示していただけるとか、環境面で取組んでいただけるお店を登録してきました。また、登録しているお店を知っていただくためにリーフレットや本を作り配布しています。

もう一つの事業は「健康づくりのつどい」の開催です。年1回、みんなで集まって顔の見える形で活動していきたいということで開催しています。こちらのテーマが「健康の輪」「地域の輪」「心の輪」の三つの輪であり、それに沿った活動発表をしていただいています。当初は区役所で発表していましたが、仲間がどんな発表をしているのかわからないということがあり、知り合いになって初めて連携ができるということで、一つの所でみんなが顔を合わせてやれる市民館のホールを借り切って発表できるようになりました。最初の部は各取組の発表、中盤では医師会などの協力もいただきながら体脂肪や骨密度の測定などの体験、最後は健康講話を聴くという一日です。今年度も2月21日に市民館で開催しますので是非皆様においでいただきたいと思います。

次に収益事業ですが、最初は市からの助成金のもとで始めましたが、今の収入のほとんどは委託事業によるもので、会員からの会費もありません。またスキルアップ事業では、みんなが知っていることを共有しようということでやっています。地区での活動に私たちも出向いていき、知っていただいてみんなで活動したいということで続けています。今後ともご協力をいただけたらありがたいと思います。

最後に、課題としては私たちもヘルスパートナーさんと同じで、活動の場、連携の絆を大事にしていきたいと思っています。これからもいろいろな事情があると思いますが、保健福祉センターと市民館に御協力をいただきながら続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

**市長:** ありがとうございます。なによりも素晴らしかったのは、いろいろな団体と連携しているというのがいいなあと思いました。今日お会いになっているメンバーもだいたいどこかで繋がっている。これはとても大切だと思います。こういう輪がどんどん広がっていくことが大事で、一つの団体ではできないことを二つ三つ掛け合わせることで足りないところを補っていく、という事だと思えます。

今、川崎市の進めている政策で、これからの10年で最も大事だと言っているのは地域包括ケアシステムの構築です。そのためには顔の見える関係が一番大事ですが、こういう同じ健康づくりとかに取り組んでいる方たちが、ばらばらに特色を出していただいて、「私これできます」「私たちはこれができます」というのを一緒にやっていく。この前ある市民の意見交換に行ったときに、行政はどこまでやれるのか、やれないのか、はっきり言ってほしい

と言われました。そうしたらどこかで折り合わなくては行けないと。それが曖昧だと自分たちはどこまでやればいいのか、或いはやらなくていいのかわからないので明確にしてほしいと言われました。この地域包括ケアシステムを構築していくうえで、今度の4月、区役所の体制を大きく変えていきます。保健師が内部の事務仕事が忙しすぎて地域に出ていく時間がなかったんですが、これからはだいたい中学校区ごとに2名くらいずつ地域の担当者を決めて外に出ていくという活動をやっていきます。そこで皆さんの団体との連携、地域の中で何があるか、地域の資源などをくっつけていくというのをやっていきます。それが区役所にとって最も大切な仕事になっていきます。今、田辺さんがおっしゃった「いろんな団体を重ね合わせ」というのは行政としても、そこをコーディネートしていくということは大事だと思っています。これからも力を尽くしていきたいと思っておりますので是非パートナーとしてこれからもよろしくお願ひします。それから、食生活では29年度には中学校給食が始まります。最も大事なものは食育ですのでここにしっかりと力を入れていきたいと思っています。中学校時代はいちばん食生活が乱れる時期、だけどいちばん成長が著しい時期なので、ここでしっかり食育をやることで将来成長してからも健康に対する意識が培われように、そういった意味でこれからもお力を貸していただきたいと思ひます。ありがとうございました。

**NPO法人コスモス（横山さん）：**今年度の高津区市民提案型協働事業に手を挙げましたNPO法人コスモスです。ご存じないと思ひますし、今お話のあったような関係団体とはまるっきり違ったところから手を挙げておりますので、ご紹介をさせていただきます。平成12年に自主運営で女性の知的障害者の方たちのグループホームを開設しました。現在8名の女性の地域での生活を支援しています。平成14年に法人化、平成15年には市の指定事業者として仕事をさせていただいています。「完全平等・社会参加」「安心安全に地域で生き続けられる社会」を目指して活動しています。グループホームで暮らす障害者の方は暮らしの場であるグループホームでの生活にとどまらず、地域の一員としてご理解いただき、仲間として受け入れていただく為に、平成18年交流の場の拠点として『コミュニティカフェココデ』を開業し、現在に至っております。田村さんの方でご紹介のありました協力店にも手を挙げておまして、いろいろご指導いただいた経緯もあります。今もがんばって健康づくりのための食を目指していますが、なかなか難しい経営になっています。

今回事業に手を挙げた背景は、今、市長さんからお話がありましたように、介護保険制度が平成26年6月に改正されまして、27年度以降に順次それが実施されることになっています。その中で、要支援者向けの予防給付である、ヘルパーさんたちを派遣する訪問介護と通所介護（デイサービス）の二つについて介護保険から切り分けられて、このサービスは市へ移管されて市町村の采配になっていくわけですが、今お話があったように、まさに地域住民全体が主体となって、「より、その人らしく生きていく、生きていける」地域をみんなで作ろうということで、先ほどから皆さん声を揃えておられますが、いわゆる地域包括ケアシステムを構築しなければならないということは、私ども障害者のグループホームを運営している者もまさしく同じ思いでありますし、私も当事者になっておりますので、ぜひ、先を見据えて取り組んでいきたいと思ひます。

この事業の目的は、高齢化・核家族化などで老々世帯が多くなってきているということで、地域におけるコミュニティも、町会の方に参加される方も少なくなったり、実際、高齢化が進んでお当番ができなくなったりという環境にもあります。高齢者、特に独居の方たちは、かなり孤立しておられる状況が見て取れます。事業では、地域サロンを開設することで、より広く多くの高齢者の方たちが気軽に訪れる機会を得られて、他人との交流を通じて自分は一人ではないと、不安を払拭していただけると同時に、支援が必要な方たちに保健・医療・福祉等の適切なサービスに繋げていくことを目的に今、必死になって取り組んでいます。残念ながら27年度事業で走り出しましたのは7月くらいからなのですが、長い歴史があるわけではなく、とにかく毎日必死になってやっております。

この事業を提案するに至った三つの出来事がありました。コミュニティカフェを開業して間もなく、店の前に頻りに救急車が止まり、高齢者の方が降りてこられて、搬送されるんです。この方は、独居で80歳を過ぎておられて年末になると、不安を感じられたり血圧が上がったりするのでお正月を病院で過ごすことがあったりしていました。それで消防署から包括支援センターの介護サービスに繋がり、ご家族からも私どもに「様子を見て声をかけてほしい」とおっしゃってくださったので、その方にお会いして「是非お店を覗いてください。暇なのでお話しできますよ」と誘ってみましたら、1年もたたないうちに救急車が来ることはなくなりました。よくお話してくださり今は楽しく安心して生活されていると思います。食事会も参加しておられます。

もう一つですが、やはりアパートで独居の高齢男性が脳梗塞を起こされていたんです。御親戚の方が、二日間連絡が取れないということで大家さんに開けてもらったら玄関の所で倒れていて、救急搬送され病院で亡くなりました。店を開いて間もなくそんなことが続きました。それからボランティアグループさくらそう会のほうで、買い物・清掃・薬の受け取りの依頼をされた方は独居の男性でした。介護保険サービスはご存知がなく、実は酸素ボンベを使用されている方で、民間の緊急コール・家政婦派遣の事業所の利用のことを相談されたので、介護認定の申し出をされることを奨めました。包括支援センターに繋ぎ、間もなく認定されるというときに、低栄養で亡くなられたんです。お医者様からはナトリウム不足と言われているのでがんばるんだと言っておられたにもかかわらず、残念ながらそんなことがありました。もう少し早ければと思っています。

27年度まだ途中なんですけど、取り組んできたこととしましては、一歩踏み出していただくために、どういったことをすればいいのかを知るために、皆さんはどんなことに関心を持って外に出られるかということのアンケートをとりました。回答は35名です。関心がどこにあるかわからないと何も企画できないので、関心のあることはなんですか、とお尋ねしますと、1位は終活です。2位は文化、3位は旅行。気になることはなんですかとお尋ねしますと健康、介護、家族、の順番です。大切にしたいことはなんですかと尋ねますと、1位は家族、2位健康、3位友人となりました。そのご意見をいただきまして7月からサロンを続けていますが、お手元にはご案内があると思います。多くの対象者の方にお知らせを届けるために、ボランティアの方たちや区役所や民生委員さんに配布をお願いしたり、市政だより高津版、神奈川新聞、タウンニュースに掲載していただきました。また久本第3町会の回覧



板に入れていただいております。3,000枚ポスティングもしていただきました。地域の方たちにいろいろご協力をいただいております。サロンから発展して、その後の「ゆるり終活」とか口腔ケアを通して読書会「音読の会」とか作りまして、皆さんで健康づくりのために、それから何よりも話す場がほしいということで、いっぱい話す場を作りながら進めています。これからはより地域の方たちと協働してその人らしく生きる場を更に進めていきたいと思っています。多くの方が外出して出会いの場を作っていく、自分の気持ちを語り笑い合う場、継続して参加しその人が希望する、また適した活動のできる場を多様に作っていきたいと思っています。高齢者の心の健康は、人との出会い、知り合い、語り合うことから生み出されると痛感している昨今です。

**市長：**横山さん、ありがとうございます。先程米山さんから高津区の高齢化率17.2パーセントという話が合って、川崎市は19パーセントで全国平均26パーセントぐらいですかね。21パーセントを超えると超高齢社会というんですが、今神奈川県内で超高齢社会になっていないのは川崎市だけです。さらに、高津区はもっと若いという事ですが、でももっともっと細かく見ていくと、今横山さんにおっしゃっていただいたように、ほんとにケアを必要としている人ってたくさんいる。老老介護だとか、或いは非常に問題が深刻になっているのは高齢独居の方が非常に増えていて、特に女性は長生きですから女性の独居の方が非常に増えている。川崎市内ですと川崎区は独居率が非常に高くなっているけれども、これは全市的、全国的な課題だと思っています。そして独居の方々が介護保険制度を知らない、サービスが届かない、というのは行政としても非常に問題だと思っています。広報はしているんですけども、そこには届かないということがありますので、何とかその人たちに外に出てきてもらおう。サロンのようなところ、或いは皆さんが活動しておられるようなところに、なんでもいいから出てきてもらって、人と会話をしてもらおう。そうすることによって、何がこの人に必要なのかということが見えてくる、そのひとつのきっかけとしてサロンというのはとっても大事だと思っています。これからの地域包括ケアの中でもとても大事なポイントだと思っています。ふらっと立ち寄れる場というか、今、地域包括ケアは中学校区をひとつの単位にしていますが、意外と広いので、もう少し細かい所でこういったサロンだとか、立ち寄れる場というのを作っていかなくてはいけないと思うので、これからも協力していただきたいと思っています。

介護保険制度が変わって、総合支援事業に移行しますので、今、介護保険事業をやっておられる方の意向というのを先に準備を進めていて、今回このご質問を受けるに当たり、どうなっているのか調べました。相当遅れているという感覚を持ちました。皆さんに対する説明が行き届いていないと思いました。来年4月から移行しますから、より幅広いNPOとかボランティア団体とかのところにもしっかりと説明がいくようにやっていきたいと思っています。これをきっかけに皆さんにしっかりと情報提供できるように取り組ませていただきます。このように区民車座集会をやらせていただきますと、いろいろな情報が私の方にもいただけるので、ここが進んでないのか、ここが足りないのかということ、私が知るきっかけになり、それで行政サービスを変えていくいい形になっているのではないかと考えていますので、引

き続きいろいろな情報を教えていただければと思います。これからもよろしくお願いします。

### <自由意見交換>

**米山さん:** 私たちの教室の中で9年間続きた教室が閉鎖されることになりました。25年度から、ふれあいネットが導入されて、市民プラザで行っていた『いきいき体操教室』、これが一斉の電話予約になりましたので、10人が毎回9時に一斉に電話して、1年間で取れたのは2回だけでした。それでは教室は成り立ちませんので閉鎖することになってしまいました。片方では健康寿命の延伸という政策があり、片方ではふれあいネットという制度で平等に予約をとるという矛盾で、120～130人もいた高齢者の方たちができなくなってしまって、その受け皿として、溝口のいこいの家で立ち上げたんですが、そこまで通うことができなくて、続けている方は15人です。とても残念なことです。相当高齢の教室でしたのでときどき思い出しています。でも15人の方が電車とバスを乗り継いできていただいています。

**市長:** なるべく近場でというのは大事だと思っています。市民プラザは申し訳ないことになっていますが、あれは川崎市の指定都市記念公社から寄付を受けて川崎市の施設になったために、ふれあいネットの形になりました。健康づくりの取組だけではなく、いろいろな市民活動があって、それぞれに取組をされている中で、やはり川崎は都市部なのでどうしても活動場所が制約されてしまうという残念なことになっています。ヘルスパートナーさんもいろいろな所で教室を開いていただいているいろいろな工夫をいただいていると思いますが、区とも相談しながら進めていただければと思います。市民プラザだけが教室ということにはならないので、その地域でどこかないかなというのを一緒に探して協力していきたいと思っています。

**横山さん:** 私どもは、国の政策などはインターネットで情報入手していますが、例えば今回ガイドラインを見まして、今回手を挙げたサロンのようなものについては資金計画をされるような記載を見つけました。市長さんは前の車座の時に、1年じっくり様子を見て丁寧にヒアリングをして異論のないように進めていきたいとおっしゃったんですが、具体的に私どものところで考えますと、27年度させていただきましたが28年度は審査にかかっていて通るかどうかわからない。引き続きステップアップしていくということで、参加された高齢者の方たちが主体となってボランティアなところで広めていこうとは思っているんですが、基本的な必要財源が確保されていないと継続が担保されませんよね。29年度はないんですよね。30年度市から方針が出てから私どもに届くのにかなり時間がかかります。是非29年度にはきちんと綱渡りのように継続できるような速足の、人よりも一歩先に出た政策を進めていただきたいと非常に強く思っていますので、よろしくお願いします。

**市長:** コスモスさんだけでなく、他の事業者さんからも同じような御意見があると聞いています。27年度から3年かけて移行時期と言っていますが、今おっしゃったように27年度中はしっかりと調査していろいろな御意見をいただきながら進めていくとお答えしたとお

り、28年度からちゃんと始めるようにするにはもう少し情報提供をしっかりとやっていかななくてはならないと感じていますので、そのところはしっかり持ち帰りたいと思っています。

**石塚さん:**川崎市に90年住んでいますが、高津区というところは昔から住んでいる人も多く、苗字を言えばどこの地区の人かわかるくらいの土地でしたが、それが日本工学ができて、東芝、八電電機、日本通信、池貝鉄工、三菱化成、三井金属、私が行っていた帝国臓器などができ、そこに従業員がいっぱいた、或いは日本鋼管に通っている人たちがこの高津はいい街だ、田園都市線、南武線があつて住むのに便利だというので住んできた人たちが、今、我々の仲間として70歳80歳になっている。そして今、孫子がここに住んでいるわけです。私たちが川崎市に尽くしてきた功績と言つてはなんです、努力してきた人たちが住んでいる所ですから、是非私たちが高齢期を無事に楽しく過ごせるようなところにしてもらいたいと、これは要望ではなくお願いです。

**市長:**石塚さんがお生まれになったときに川崎市はできたのですが、その時の人口は4万8千人です。今147万人で今年京都市を抜いて全国で7番目に大きい都市になりました。この目覚ましい発展ぶりというのはいろいろな大きい企業さんが増えて、南部にしか住んでいなかったのがだんだん北上して住宅地になってというのが、昭和40年代から50年代にかけてすごいですよね。昭和30年代は毎年5万人ずつ増えていたんです。先月は4か所の小学校の創立50周年に出席しましたが、毎年、学校がいっぱいだったんですね。実は、今も新しい学校を建てる予定が2校あつて、文部科学省から、いまどき新しい学校を建てるどころなんてどこにもないですよ、と言われていたくらいなんです。

これから目指さなくてはならない社会についてですが、今人口の6パーセントが何らかの障害をお持ちの方です。これは、佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さんこれら4つの名字の方を合わせるとだいたい6パーセントくらいだそうです。では、そのくらい障害者のお友達がいますかと聞くと、いないと言う。ここに100人いれば6人の方に何らかの障害があつてもおかしくないです。でも、社会の中では分離されているんですね、だけど正しい姿ではない。やはりその人たちも混ざり合つて生きていく社会を作つていかななくてはならない。こういう社会は子供にとつても高齢者にとつてもやさしい街だと思ふんです。

5年後に東京オリンピック・パラリンピックがありますが、川崎はパラムーブメント、パラリンピックを支援します。それを支援することによってみんなの意識を変えて、行動も変えて、まちづくりも変えていく。そしてオリンピックが終わったら終わりではなく、目指すのはオリンピック以降も含めた、目指すべき社会というのはそういう社会なのではないか、地域包括ケアも全く同じ考え方です。こういう事を、今日の皆さんの団体をはじめ、それぞれの地域で特性に合った団体がいっぱいいらっしゃるの、そういう方たちのネットワークを、何か新しいものではなくて、既存のものをどう繋いだ社会を作つていくかということだと思います。是非これからもよろしくお願いします。それが石塚さんがおっしゃった、いい街であるためのキーだと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは、本日はこのくらいにさせていただきたいと思ふのですが、あえて一言言いたい

という方はいらっしゃいますか。

**米山さん**：市長が提唱されている「最幸のまち」、最も幸せなまちを是非目指していただきたいと思います。

**市長**：ありがとうございます、頑張ります。みなさん、どうもありがとうございました。